



市民活動後押し 近畿労金が寄付

12団体、計262万円

近畿労働金庫（大阪市）は、国際協力や防災、子どもへの支援などに取り組み、兵庫を含む近畿2府4

県、兵庫を含む近畿2府4県の12団体に対し、「社会貢献預金（笑顔プラス）」として利息分で寄付された金額に近畿労金の拠出金を加えた計約262万円を贈った。

同預金は金利を店頭表示より0・1%引き下げ、その分が寄付に回る。市民活動を後押ししようと2012年から始め、18年4月に内容を一新して発売した。

12団体のうち兵庫からは、災害や病気で親を亡くした子どもたちを支援する「あしなが育英会」（神戸市）と、海外の被災地支援に取り組む「CODEE海外災害援助市民センター」（同）、東日本大震災など各地で支援を継続する「日本災害救援ボランティアネットワーク」（西宮市）が選ばれた。

CODEEの担当者は「同労金が橋渡しし役となり、多くの預金者に活動を知ってもらえることはありがたい。被災地支援と次世代の人材育成に役立てたい」と話した。（竹本拓也）

贈呈式で寄付金を受け取ったCODEEの吉橋雅道事務局長（左）＝大阪市西区江戸堀1（近畿労働金庫提供）

笑顔プラス の活動応援

西 区

社会貢献活動を展開する近畿労働

金庫(西区江戸堀1丁目)は18日、障害者の支援や防災などに取り組む関西2府4県のNPO法人など12団体に活動を応援するための寄付金を贈呈した。
(山本圭介)

近畿労金

関西12団体に 寄付金を贈呈

近畿ろうきん
社会貢献活動：近畿労働金庫



今後の活動に意欲を見せる各団体の出席者

同金庫が取り扱う定期預金「社会貢献預金(笑顔プラス)」の2018年度の預金者の寄付負担分(約12万円)と、同金庫からの拠出金(250万円)の計約262万円を贈呈した。1団体当たりの配分額は約20万円(約27万円になる)。

大阪府内では、生命を脅かす病気を伴う子どもに学びや遊びを提供する「ことものホスピスプロジェクト」(鶴見区)▽ドメステックバイオレンス(DV)などの被害者を保護する民

間シェルターを運営する認定NPO法人「いくの学園」▽障害者をサポートするNPO法人「日常生活支援ネットワーク」(浪速区)に贈られた。
贈呈式で山本昌則常務理事は「預金者の思いがこもっている。有効に活用してほしい」と呼び掛けた。
同プロジェクトの高場秀樹代表(51)は「寄付は子どもへの尊敬を大切にすると、いづつ社会の意思表示でもある」と感謝を述べ、同学園運営メンバーの金子明代(48)は「災害時にどうすべきかを考える場をつくりたい」と語った。同「たい」と話した。
12団体のうち「近畿共通P.O.法人「関西NGO協議会」にも贈呈された。

人「日本災害救援ボランティアネットワーク」と、NPO法人「関西NGO協議会」にも贈呈された。